

■ 説明会の記録

9. 陽光台小学区

日時：平成 27 年 12 月 17 日（木）19：00～20：00

出席：58名（子どもを除く）



（説明会の様子）

■『つくばみらい市立小学校の統廃合』に関する計画(案)の説明会 質問・回答一覧(陽光台小学区)

主な質問・意見		回答
1. 基本計画全般について		
1	統合スケジュールについて、どの段階で（統合すると）決定するのか。	平成 35 年度を目標としている。どの段階で統合するかは決めていない。話し合いをしながら決めていきたい。ただ、現在複式が発生している学校や将来複式が発生する学校は優先して行っていきたいと考えている。
2	（仮称）富士見ヶ丘小は平成 30 年開校は確実なのか。遅れる可能性はないのか。	平成 30 年 4 月の開校に向けて、現在、基本設計を行っており、今後、実施設計、工事といった流れで完成に向けて進めている。
3	陽光台小は平成 29 年に 34 クラスとなり過大規模となるが、教室数の不足など、想定される問題は何かを考えているか。	（仮称）富士見ヶ丘小の開校までの 1 年間は不便を生じさせると思うが、多目的教室などを利用するなどして、なんとか補っていききたいと考えている。 さらに足りなくなる場合は特別教室を改造するなどして教室の確保を図りたい。なお、教員の確保については問題ない。
4	計画書 p11 陽光台小と小張小が統合した場合、32 教室を超えることが常態化し教育環境は良くないのではないか。	単純に各学校のクラス数を足したのものとはならず、小張・陽光台はピーク時で 31 クラスとなる（P13 参照）。
5	伊奈中と谷和原中のキャバシティの記載がないが、予想が外れて教室数が不足するということはないのか。	谷和原は 13 クラス、伊奈中は 26 クラスある。学区選択性を続けた場合は超えることも想定されるが、（常磐道で区切った場合の）学区制とした場合は人数は許容できると考えている。
6	例えば、小張小が廃校となった後、中学校として利用することなどを考えているか。	各学校は耐震補強やエアコンの設置をしたばかりであり、取り壊すことは考えていない。中学校については、いただいたご意見も踏まえ今後も検討していきたい。
7	給食センターの建設について、学校跡地を利用すれば建てる必要はないのではないか。	給食センターのピークは平成 30 年度となり、統廃合の時期と必ずしも一致しないことや施設規模の条件などから跡地利用は難しいと考えている。
2. 基本計画全般について		

1	伊奈中と谷和原中の選択制はいつまで続くのか。選択制がなくなる可能性があるのか。	みらい平地区の中学区については、陽光台小と（仮称）富士見ヶ丘小の学区が決定する頃になる。（仮称）富士見ヶ丘小の開校もあり、来年度に結論を出していきたい。
3. 人口推計について		
1	児童数の将来推計について、どの程度の人口推移と考えると考えているのか。	みらい平地区については、計画人口 1 万 6 千人で推計した。現在、その半分くらいが居住する状況であり、今後、残りの半分が転入することを想定して推計している。 計算にあたっては、住居が建っていない区画をみながら転入人口の算定を行うなど、みらい平地区のビルドアップ状況を踏まえながら、計算を行った。
4. 通学支援について		
1	統廃合で生じるスクールバスや通学路の整備などにかかる予算の見通しやスケジュールはどのようになっているか。	スクールバスは、過去の実績では約 800 万円／年かかった。スクールバスの運行は現時点では決定していない。通学路については、市で進めている歩道整備計画と連携しながら、進めていきたい。
5. みらい平地区から既存地区への通学について		
1	みらい平地区から既存地区の学校への通学はあまり考えにくい。陽光台子ども同士の相性もあるので、クラス替えできない状態は選びにくい。	ご意見として承った。既存地区とみらい平地区のそれぞれのご意見をお聞きしながら、市全体の義務教育の配置を考えていきたい。
2	みらい平地区から既存地区の学校への通学となると、何か+αの特徴ある学校でないと難しい。	ご意見として承った。既存地区とみらい平地区のそれぞれのご意見をお聞きしながら、市全体の義務教育の配置を考えていきたい。